

社協通信

皆実学区社会福祉協議会



第29号 令和元年9月30日 発行 皆実学区社会福祉協議会

<http://shakyo-hirosima.jp/minami/> 発行責任者 市川 宏

社会福祉法人 広島市南区社会福祉協議会 検索

赤い羽根共同募金が始まります ～10月1日より～

目標額は、一世帯当たり311円！！

ご協力の程よろしくお願いいたします

令和元年新しい年度ですが、地球温暖化現象といわれて各地で災害が起こり、日本も各地で近年にない被害を受けております。その状態の中で、まだ復興で苦悩しているとき、共同募金や寄付など非常に言い難い雰囲気の中ですが社会福祉についても、痛ましい事件や貧困、子育て高齢者の支えなど先送りの出来ない社会情勢です。政府も消費税アップで凌ぎ通す計画ですが、非常に混乱しております。

高齢者には益々分からなくなり、老後の不安を助長しております。何か貧富の差が起こる予感さえ致します。

参考までに、昨年度（平成30年度）の実績と状況をお知らせいたします。世帯数の変動で若干変わりますが、世帯数5,517、目標額1,000,000円で達成率45,9%の実績でした。

お蔭で本年度の配分率が上がりました。他の地区は減のところが多いのに、皆実学区は4,070円増額になりました。本年度も何とか達成率を上げて頂ければ助かります。せめて50～60%にしたいものです。

ちなみに、皆実学区は最近南区では最下位を脱しまして、現在は下から3番目になっています。最下位は32,7%。最高位は221,6%（似の島）で特別です。

本年度につきましては、各町内会長さんにはお願いと目標額をお知らせしてありますが、改めて、社協通信でお知らせいたします。

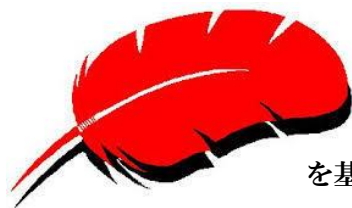
令和元年は、皆実学区へは目標額（町内会加入世帯数3,261として）1,014,000円で、昨年より14,000円多い。目標額の設定は一世帯あたりの基数311円とし、百の位を切り捨てた数値です。

町内会の事情で、集め方は色々ですが基本的には各世帯の意志での募金であることを基本にしてください。

その印として、赤い羽根をお取りください。

<令和元年度の助成金の内訳>

昨年度の皆実学区の募金実績割りで118,820円、各学区均等に150,000円の合計268,820円を共同募金から頂いています。皆実学区は昨年より4,070円多く頂くことになりました。



各町内会が敬老会を実施しました

遂に！日本は、100歳時代になりました！！



9月16日（月）祭日は、敬老の日でした。各町の条件は異なりますが、高齢者の長寿をお祝いして敬老会を行う慣わしになって、各町の年中行事となっているようです。ご招待された皆様や止む無く欠席された高齢者の方々に社協からもお祝いを申し上げます。お元気な方、体の不自由な方などありますが、生きていることの喜びは何にも替え難いものです。「もう歳はとりたくない」と言われる人もいますが、やはり、お祝い事には違いありません。家族はもとより近隣の住民たちは、長寿を祝うと共に敬う気持ちで一杯だと思います。困ったことや助けて貰いたいこと等、遠慮せずに隣や組長さん、町内会長さんの相談や支援を受けてください。ところで、高齢のお祝いは還暦から始まり、古稀、喜寿、傘寿、米寿、卒寿、白寿の99歳まではよく知られています。ところが実は、100歳以上になると何でしょう。それがあるんです。108歳になると茶寿（茶の冠が十と十、下が八十八で108）。次が111歳で皇寿（白が99、王が一と十一で計111）までを区切りとして祝います。112歳以降は、珍しいため、珍寿といい毎年お祝いをするそうです。ところが、日本では珍しくない時代になりました。日本に世界一の高齢者が存在します。福岡市の女性、田中 ^{かね}カ子 さん（116歳）次が、日本の男性で新潟県の 渡辺 智哲さん（112歳）です。日本には100歳以上の高齢者は、ついに7万1238人になり、49年間連続増加ということらしいです。



南区社協の巡回訪問で皆実学区社協と情報交換と協議

皆実学区社協の活動現状と“街づくり”を検討

9月18日（水）13：30から、学区社協拠点において南区社協田畑局長、吉川主任、包括支援職員一人と我々幹部4人と約1時間40分くらいの話し合いを致しました。年度一回の南区各学区社協への巡回訪問です。去年は、災害のため行われませんでした。話し合いの内容は、①広報について、②新福祉まちづくり総合推進事業について、③「みなみまろう会」について、④サロンについて、⑤ボランティアについて、⑥町内会加入状況についての六項目が主な活動状況と情報交換や検討の話し合いでした。いずれも、現在活動している事実を話し合い、課題や要望や対策指導などが浮かび上がりました。特に、②について第一次事業から既に時間もたち世相や町の状況も変化しているので、二次事業に取り掛かる必要はどうか？③は、包括支援センターからの助言や経過報告もありました。④は、サロンの定着はよいがマンネリ化に課題。⑤については、児童見守りの活発なのに対して、一般の人の需要がないので目立たないが、実態としては近隣でお互いに行われている様子であること。⑥については、全国的問題で低調であり、マンションの加入率が問題である。対策は交渉あるのみとのこと。 大変有意義な会議で、外部からみた客観的助言は助かりました。



大変有意義な会議で、外部からみた客観的助言は助かりました。